

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区 名 旭区
学校名 大阪市立清水小学校
学校長名 北埜 恵一

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・大阪市立清水小学校では、第6学年 67名

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

平均正答率は、国語科、算数科とも全国平均や大阪市平均より下回る結果となった。全国平均と比べると、国語科は、9.2ポイント、算数科は、7.5ポイント低い。大阪市平均と比べると、国語科は9ポイント、算数科7ポイント低い。平均無解答率は、国語科は、全国平均より0.2ポイント高く、大阪市平均よりは1.1ポイント高くなっている。算数科では、全国平均より0.1ポイント、大阪市平均より0.4ポイント高くなっている。

領域別に結果を見てみると、国語科では、「書くこと」については、大阪市平均に近づきつつあるものの、他の領域では6ポイントから10ポイント近く下回っている。算数科では、「図形」や「データの活用」については、大阪市平均に近づいてきているが、他の領域では大阪市平均を大きく下回っている。特に、「数と計算」の領域では11ポイント以上下回った。

今後も、基礎・基本の定着とともに、さらなる学力の底上げが必要である。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

[国語]

「書くこと」及び「情報の扱いに関する事項」については一定の成果が出ている。これまで「書くこと」に対し、苦手意識がある児童が多かったが、図やグラフから読み取ったことを考えが伝わるように書くことが少しずつできてきていている。授業や自主学習などで、考えを書く機会を増やすように努めた成果と考えられる。また、「情報の扱い方に関する事項」では、複数の資料から原因と結果の関係を読み取ったり、資料を適切に整理する方法を考えたりすることができる児童が増えている。読解力の向上を念頭に日々の授業を工夫してきた成果と考えられる。

一方で、「話すこと・聞くこと」の領域では、大阪市平均を大きく下回っている。必要なことを質問しながら聞いたり、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えたりすすすことができるよう、インタビューやプレゼンテーションなど対話や発表の機会を増やしていく。

無解答率は、ほとんどの問題で全国平均を上回っている。記述式では、正答率も高かったが、依然として無解答率も他に比べると高い傾向にあった。

[算数]

「図形」と「データ活用」に関する問題については、大阪市平均に近づきつつあり一定の成果が見られた。習熟度別少人数で一人一人に合わせた丁寧な指導やICT機器の活用を続けた成果である。

しかしながら、「数と計算」の領域では、大阪市平均を11.5ポイント下回っている。低学年からの着実な積み重ねや計算練習など習熟のための時間、家庭学習の不足によるものと考えられる。また、答えは出せるものの計算の仕方を説明することが難しい児童も多かった。答えに至る過程も理解し、計算力が向上するよう指導を進めていく。

無解答率は、選択式、短答式の問題では全国平均より低い問題もあるが、記述式の問題になると無解答率がかなり高い。国語科で「書くこと」の成果が出てきているので、論理的に簡潔に説明する力を育成し、算数科にもつなげていきたい。

質問紙調査より

児童質問紙の結果を見ると、国語科・算数科ともに「好きである」「よくわかる」と回答した児童の割合が高い項目が多く、児童の学習に対する意欲や授業中における理解度は高いと見られる。特に「算数が好きですか」の項目に対し「当てはまる」と回答した児童の割合は、全国・大阪府平均に比べ非常に高い。（+10ポイント）教員一人一人が「わかりやすい授業」を目指し、工夫・改善してきた結果であると考える。学力調査の正答率に反映されてきていないのは、授業はわかりやすくその場では理解できるものの、授業中や家庭での演習量が十分でないため、時間がたつと忘れてしまったり、自分一人でやってみるとできなかつたりといった現状があるからだと思われる。さらなる授業の改善を行い、学んだことをしっかりと定着させる工夫を重ねていきたい。

本校では、読書の充実に努め、図書館だけではなく、本を読めるスペースが3か所あり、各学級にも学級文庫が設置され、いつでも本を手に取れる環境をつくっている。また、図書ボランティアによる読み聞かせを定期的に行ったり、読んだ本の冊数によって表彰されたりと読書に興味をもたせる工夫も重ねている。にもかかわらず、「読書は好きですか」で肯定的な回答をする児童の割合は、全国平均より17ポイント低く、「学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。」の項目で「全くしない」と回答した児童の割合が4割を超えるという結果だった。よく本を読む児童と全く読まない児童の二極化が見られ、新たな取組の必要性が感じられる。

肯定的な回答が、全国平均を大きく上回った項目は、「英語の勉強は好きですか」、「将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業についてたりしたいと思いますか」であり、それぞれ、10ポイント、17ポイント以上上回っていた。当学年の児童は、3年生から外国語活動で、5年生からは外国語科で英語に慣れ親しんできており、世界の国々や食べ物について英語で発表をしたり、外国語助手（C-NET）とも気後れせず積極的に話したりすることができる。本校がこれまで進めてきた多文化習慣や国際クラブの取組など、様々な国々の文化に親しみ多様性を認める人権教育の推進による成果だと考えられる。今後も、世界に目を向け、国際社会で活躍することを目指す児童の育成に努めたい。

学校生活に関わって、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」の項目に「当てはまる」と回答する割合は全国平均より10ポイント低く、基本的生活習慣に課題が見られる。「学校の授業以外に1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問に対し、「30分より少ない」「全くしない」児童は、40%近くおり、全国平均（4.6%）よりかなり低い。学力向上のためにも、まずは「早寝、早起き、朝ご飯」といった基本的生活習慣の確立、そして、家庭での学習や読書、新聞に接する習慣の定着を目指し、家庭への啓発を含め、児童への意識付けを積極的に行っていきたい。

今後の取組(アクションプラン)

本校は、令和3年度から研究教科を算数科とし、楽しくわかる算数科の授業とは何かを追求し、指導法を充実させることによって、児童の学力向上を目指してきた。児童質問紙において、「算数が好きである」「授業の内容がよくわかる」と答えた児童の割合が2年連続高い結果が出ており、その成果が表れている。今年度も「学力向上支援事業」を活用し、教員一人一人の指導力の向上に努め、児童が算数に興味をもち、「楽しい」「わかった」という実感もてる授業をめざしていく。

また、算数科に限らず、どの教科でも、授業の「めあて」の明確化を行ったり、ICT機器、一人一台端末を活用した視覚的教材の工夫等を行ったりすることにより、「わかる授業」をめざす。外部講師を招いたり、体験的な学習を多く取り入れたりして、学ぶ楽しさや喜びを感じられる授業作りを工夫し、子どもたちが将来にわたって学び続ける意欲のもてるよう学びの場を開拓していきたい。

朝の短時間学習も継続的に行い、英語に慣れ親しんだり、デジタルドリルを活用し漢字、計算など繰り返し練習することで、基礎・基本が確実に身に付くようにしていきたい。また、今年度からコグトレのデジタル版を一人一台端末にインストールしている。児童の認知機能を強化し、学力や生活全般の質、自己効力感の向上等の効果をねらい、短時間学習や授業の中で活用している。児童それぞれが自分のペースや難易度に合わせた学習を進めることにより、自主的に学習に取り組む態度、自らの学習を調整する姿勢がもてるようにしていきたい。

学校の整備面では、活用しやすい図書館改革を進め、今後より一層、読書や調べ学習をしやすい図書館をめざしていく。図書館開放への参加人数が増えるよう委員会活動等を通して呼びかけたり、「清水読書ノート」を活用を継続したりすることで、本に親しみ、調べ学習のしやすい環境作りを進める。また、自主学習ノートの活用を通して、学習に対する興味・関心を高め、学力アップにつなげていきたい。